広報 くろさき 5
平成九年五月一日発行（毎月一日発行）四〇四号 発行／黒埼町役場 〒九五〇-二一 新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三-一 電話／〇二五-三七七-三一〇一 編集／企画商工課（担当・広報統計係） 印刷／小野塚印刷㈱ 経費一部六十五円

黒埼町の今昔

第181回　執筆　宮田栄門

新聞からたどる黒埼の歴史（五十二）

当時の黒埼村鳥原新田、北部地域では、田んぼや畑で鮒や鯉がとれた。

（先月号からの続き）

今日、文明文化の進歩発達により、東京や県外遠隔地への就職や転勤も、至極当たり前のような時代となったが、村人会の人々が新潟で一旗揚げようと、郷里黒埼を発った大正中期から昭和の初期の頃では、実に一か八かの心境での乗り込みだったと伝えられている。中には婿入りしてその家業を大きく進展させた人。同じくそれまでの家業を、時代を先取りした職業に替えて財をなした人もいるが、村人会員の大半が裸一貫村を出て独力で事業を興し成功した人々である。

村人会の行った事業や、発会式の時に作られた村人会旗の行方。当時の会員の記念写真等、手を尽くして探したが、すでに大半の人が亡くなっており残念ながらわからなかった。僅かに伝えられるところでは、郷土の緒立温泉や、大野の料理屋、鷲ノ木の花見茶屋等で親睦の宴がよく開かれたという。そして、村人会は何時しか自然消滅の形でなくなったという。

村人会名誉会長宗村三松氏の手記「郷里の今昔」

黒埼村の中央部に生まれ、明治四十一年頃と思うが柳作の分教場に小学校の一年生となった。その頃、河原と称する所で運動会をやったこと。それから、伊藤博文公の国葬や明治天皇の御病気平癒祈願に大滝先生に引率され大野小学校に参集したことを覚えている。その後、昭和九年大野で同級生が集まってみたが、友人は立派な社会人になって居られた。二十数年の歳月が流れたので当然のことであろう。終戦後は婦人の同級生も参加されたが、中には全く見覚えつかない人も数人居られた。黒埼村は下越平野の真ん中で醇朴な純農村であった子供の頃、排水が旨く行かず畑に水が上がり、田で大きな鮒、鯉がとれ、村の住宅では床下浸水で炊事ができなかったこともあった。今からは想像もつかないことだ。勿論その頃は、米の収穫などは今にくらべれば話にならない。現今は用排水は完備し、耕地は整理され農業は機械化し、めざましい発展を遂げている。近年、更に又上水道が完成した。上水道は近代生活に欠く可からざるもので、以前は帰省しても入浴する気にならなかった。特に夏は水垢が身体につく始末で閉口したが、これは昔の語り草であろう。更に上水道の完備は伝染病その他諸種寄生虫病の最もよい予防対策の一つである。かく考えるとこれから黒埼村に生を享けるものは多幸の文化生活を営み得ると思う。これも皆村民各自の努力の賜である。

次に、黒埼村は地理的に新潟市の一部をなしている程、新潟市に接近している。経済的には新潟市になるのも都合がよいかも知れないが、郷里が戦後の物質追求のみの文化より日本古来の精神を尊重し著寛な農村として発展して行くことを祈ってやまない。

現在の鳥原新田
用排水路は整備が行き届いている

新潟在住の黒埼村出身者は本年黒埼村人会を結成し、岡田県議、武田村長両氏に出席してもらって発会式を行った。これは郷里が新潟市の一部をなしているようなもので、その必要はないと思うが、然し各人が黒埼出身の誇りと郷里に愛着をもっているからである。

宗村氏の郷里の今昔について

これは、郷里黒埼村出身の優れた先人の一人で、昭和三十五年に新潟でつくられた黒埼村々人会の名誉会長宗村三松氏の随想文「郷里の今昔」である。手記によれば、明治四十一年頃、氏は昔柳作にあった大野校の分教場の一年生になったというから、明治三十五年頃の生まれと思われる。村人会の発会式にあたって書かれた「郷里の今昔」には、明治四十年代の小学校時代、昔の信濃川跡の河原という砂場で運動会をし、明治の元勲伊藤博文公の国葬や明治天皇の御病気平癒祈願のため大滝先生に連れられて大野小学校へ行ったことなど、当時日本国民最大の出来事を幼少年期に体験したと記されている。

また、生活環境について、当時黒埼の鳥原新田や北部地域は西蒲平野の中でも一番の低湿地帯だった上、排水事情が極度に悪かったことから、湛水の落ちない田んぼや畑で鮒や鯉がとれたり、大雨などの後にはよく床下浸水して炊事ができなかったこと。氏が長じて、お盆などに帰省し汗を流しに風呂に入ると、池や堀の水などで湯をわかしていたため、身体に水垢がついて困ったことなどと環境の悪さが記されている。

余談であるが、筆者も鳥原新田の友人から戦後間もない頃、風呂へ入ろうと思ったら赤くなったドジョウが浮かんでいたと聞いたことがある。

それが、戦後すぐに行われたと思われる耕地整理や、土地改良とともに農業の機械化が急激に進み、現今、用排水路が完備し（とあるが、昭和三十年頃か）米の収穫量が大幅に増え、昔の収穫などはお話にもならないといっている。

加えて近年（昭和三十三年）上水道の完成により、かつて夏の風呂の水垢話は遠い昔の語り草となり、上水道は、また、衛生上からみて伝染病や諸種寄生虫病予防の大きな要素となろうと医師としての見解を述べている。そして、このような文化生活を営むことができるようになったのは、ひとえに勤勉な黒埼村民皆さんの努力の賜であると記している。

また、新潟市と黒埼村の合併問題にもふれ、最後に、今日、村人会を結成した一同は皆、黒埼村出身者という誇りをもち、郷里に対して深い愛着心をもっているからである。と結んでいる。